

## 身もつまされる本の紹介

格差社会といわれるなか、「普通の幸せ」とは、一体何を意味するのでしょうか。就活、婚活、妊活、あるいは自分の始末を付ける終活と言葉が溢れています。この普通の幸せをつかむにはいかに行動したらいいのか、男女間の時空間の歪みをワークライフバランスとかダイバーシティ（多様性）の容認だけで補えるのか。たとえば通勤ラッシュ時のベビーカー論争をはじめとして、私共の心の歪みが面白く説かれています。「居場所のない男」、「時間の無い女」のタイトルがそのまま自分に当てはまることに驚かされます。個々の事例を踏まえながら全体を統計処理でまとめた納得のいく内容です。

この国では つつましく せいっぱいに  
生きている人々に 心の弾みを与えない  
みずからに 発破をかけ たまさかゆらぐそれすらも  
自滅させ 他滅させ 脅迫するものが在る

茨木 のり子（人名詩集）

結論は、生まれて死ぬまで社会保障制度改革は個人単位に考えることが必須のようです。

平成 27 年 8 月 13 日

はまゆう会会長 市丸 喜一郎

参考書：「居場所」のない男「時間」がない女

水無田 気流（新王子病院 4 階 私の本棚）